

## メディア接触と子どもの発達

安治陽子  
(大学教員)

今日、さまざまなメディアが社会全体に深く浸透しています。多くの大人は、テレビ、ビデオ・DVD、テレビゲームなどの映像メディア、本や新聞、雑誌などの活字メディア、そのほか携帯電話、インターネットなども密接に接触しながら生活しています

が、子どももまた例外ではありません。メディアの普及に伴って、それらと接触することが子どもの健康や発達にどのような影響を与えるのか、研究者や医療・保育・教育関係者はもちろん、子育て中の親たちからも高い関心が寄せられています。

急速に普及したスマートフォンやタブレット端末は今や乳児にとっても身近なものとなっていますが、

本稿では、わが国の子どもが多くが生後まもなくから接触しているテレビ、ビデオなどの映像メディアについて、子どもの健康、発達への影響について検討した国内外の研究知見を紹介します。

### 子どもの映像メディア接触——わが国の現状

テレビ、ビデオ・DVDなどの映像メディアは、わが国の多くの子どもにとって、すでに生活の一部となっています。○歳児約一二〇〇人の保護者を対象に、毎年一回質問紙調査を行っている長期縦断研究「子どもに良い放送プロジェクト」によれば、子どもにテレビを見せ始めた時期は、生後三か月で半

数、生後八か月で九割に達していました。また、子どもの居室でテレビがついている時間は、〇歳で3時間15分、一歳で3時間23分でした。<sup>注1</sup>子どもは乳児期早期から、生活時間のかなりの割合をテレビに接触しながら過ごしていると考えるでしょう。

このような現状を背景として、テレビなど映像メディアとの接触が子どもの発達にどのような影響を与えるのか、議論が続けられています。

谷村らは、一歳六か月児健診対象児一九〇〇名の保護者に対して質問紙調査を行った結果、子どもの近くでテレビがついている時間が8時間未満かつ子どもの視聴時間が4時間未満の群に比べて、子どもの近くで8時間以上テレビがついている群では、子どもに有意味語が出現していない率が有意に高いとの結果を得ました。<sup>注2</sup>そこで日本小児科学会は、長時間視聴は言語発達が遅れる危険性が高まるとして、「二歳以下の子どもには、テレビ・ビデオを長時間見せないようにしましょう」という提言を行っています。

また加納らは、三歳児健診対象児一一八〇名の養育者を対象として質問紙調査を行い、視聴時間が長いほど発語開始（有意味語2語以上）の時期が有意に遅く、視聴時間4時間以上群では社会性の発達にも影響を与えているとの結果を報告しています。<sup>注3</sup>

しかし一方で、テレビ視聴そのものが子どもの言語や社会性の発達に影響を与えるとは言えない、という研究結果も報告されています。先に述べた「子どもに良い放送プロジェクト」の調査研究では、外遊び時間と絵本読みの頻度を統制すると、一歳時のテレビ視聴量は二歳時の表出語彙数<sup>注4</sup>に影響しないことが示されました。また、二歳時点での子どもの問題行動は、メディア接触量よりも子どもの気質や母親の変数と関連しており、二歳時点での「協調性・共感性」についても、メディア接触量よりも仲間との接触の有無や母親との関係が関連していました。三歳時点の社会性の発達については、テレビ視聴量ではなく、親がテレビをどのように見せるか、視聴時の親の態度や行動との関連が示唆されました。<sup>注4</sup>六

年後の九歳時点での調査でも、児童期における映像メディアへの接触量は子どもの社会性との間に有意な関連が認められませんでした。<sup>注5</sup> 児童期の協調性・共感性および能動性・自己主張性の高さを予測していたのは、家庭内外の対人関係のあり方や、親の子どもに対する信頼感の高さ、友達集団の規模の大きさでした。他者の心の理解についてもテレビ・ビデオ視聴の影響はないと報告されています。

これらの研究から、映像メディア接触そのものが問題なのではなく、視聴が長時間にわたることでの他の活動（外遊びなど）が制限されること、子どもの単独視聴が日常化することで他者との相互作用経験が量質ともに不足することなどが、子どもの発達にかかわるのではないかと議論されています。

## メディア接触と健康・発達——海外の研究から

欧米でも、メディア接触と子どもの発達についての研究は数多くなされています。暴力的な映像描写が模倣学習・モデリングにより攻撃行動を促進する、

といった実験的研究<sup>注6</sup>、あるいは教育番組が認知・言語発達を促進するとの研究<sup>注7</sup>などが古くから行われてきました。近年では、注意・多動・衝動性、社会性、睡眠などとの関連も検討されています。

クリスタキスらは、大規模サンプルのコホート研究で、発達早期のテレビ視聴とその後の注意（attention）の問題との間に有意な関連があることを報告しました。<sup>注8</sup> 著者らはその後の研究で、視聴したテレビの内容（コンテンツ）を三種類に分け、五年後の注意の問題との関連を縦断的に検討しました。が、注意の問題に関連していたのは三歳までの暴力的娯楽番組および非暴力的娯楽番組の視聴であり、教育的番組の視聴は関連が見られませんでした。また四〜五歳での視聴は、いずれの種類のコンテンツでも五年後の注意の問題と関連していないことが示されました。<sup>注9</sup>

またミストリーらは、テレビ視聴時期に着目し、五歳半時点での行動問題や社会的スキルの発達への影響が異なるかどうかを縦断的に検討した結果、生

後30〜33か月時点と五歳半時点の両方で一日2時間以上のテレビ視聴をしていた群は行動問題との有意な関連が見られ、五歳半時点のみで2時間以上視聴していた群は低い社会的スキルと関連が見られました<sup>注10</sup>。しかし、30〜33か月時点のみ2時間以上の視聴をしていた群では、発達への影響はほとんど見られませんでした。

このような研究から、メディア接触の影響を論じるには、何時間視聴しているかというメディア接触量だけでなく、どのような内容（コンテンツ）を、発達などの時期に視聴しているかについても吟味することが不可欠であるとの認識が高まってきました。ただし、コンテンツを扱った研究を集めて発達への影響をレビューした論文においても、向社会性や攻撃性については結果が一致しませんでした<sup>注11</sup>。コンテンツや視聴時期に加えて、例えば視聴の仕方（誰と一緒に視聴し、内容についてどのような会話が交わされているのか、など）についても検討する必要があると考えられ、それらの変数を加えた研究デザ

インが採用されるようになっていきます。

わが国においても、心理学、医学、脳科学などにおける多様な研究が蓄積されてきています。例えば乳児期にはすでにバーチャル映像とリアルを別のものと認識していることなども明らかになってきています。育児や教育の現場に研究知見を提供するには、さらに詳細な実証研究の成果が求められています。新しいメディア機器の開発や普及は急速で、研究成果の社会還元にはスピードも必要とされています。

#### 注

1 NHK放送文化研究所「子どもに良い放送」プロジェクトフォロワーアップ調査中間報告第3回調査報告書」二〇〇六年

2 谷村雅子 高橋香代 片岡直樹 富田和巳 田辺功

安田正 杉原茂孝 清野佳紀（日本小児科学会子どもの生活環境改善委員会）「提言 乳幼児のテレビ・ビデオ長時間視聴は危険です」日本小児科学会雑誌

Vol.108, No.4 PP.709-712 二〇〇四年

- 3 加納亜紀 高橋香代 片岡直樹 清野佳紀「三歳児におけるテレビ・ビデオ視聴時間と発達との関連」  
日本小児科学会雑誌 Vol.111, No.3 PP.454-461  
二〇〇七年
- 4 NHK放送文化研究所「子どもに良い放送、プロシエクトフォローアップ調査中間報告 第4回調査報告書」二〇〇七年
- 5 NHK放送文化研究所「子どもに良い放送、プロシエクトフォローアップ調査報告 第10回調査報告書」二〇一三年
- 6 Bandura, A., Ross, D., & Ross, S.A. (1963) Vicarious reinforcement and imitative learning. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 67, pp.601-607.
- 7 Diaz-Guerrero, R. & Holtzman, W.H. (1974) Learning by televised "Plaza Sesamo" in Mexico. *Journal of Educational Psychology*, 66, pp.632-643.
- 8 Christakis, D.A., Zimmerman, F.J., DiGiuseppe, D.L., & McCarty, C.A. (2004) Early television exposure and subsequent attentional problems in children. *Pediatrics*, 113, pp.708-713.
- 9 Zimmerman, F.J. & Christakis, D.A. (2006) Associations between content types of early media exposure and subsequent attentional problems. *Pediatrics*, 120, pp.986-992.
- 10 Mistry, K.B., Minkovitz, C.S., Strobino, D.M., & Borzekowski, D.L.G. (2007) Children's television exposure and behavioral and social outcomes at 5.5 years: Does timing of exposure matter? *Pediatrics*, 120, pp.762-769.
- 11 Thakkar, R.R., Garrison, M.M., & Christakis, D.A. (2007) A systematic review for the effects of television viewing by infants and preschoolers. *Pediatrics*, 118, pp.2025-2031.